



## マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて(資料)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-05-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 宰, 中矢, 礼美, 福田, 隆眞 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00004968">https://doi.org/10.32150/00004968</a>

## マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて（資料）

佐々木 幸\*・中矢 礼美\*\*・福田 隆真\*\*\*

\* 北海道教育大学釧路校美術教育講座

\*\* 日本学術振興会特別研究員

\*\*\* 山口大学教育学部

### はじめに

本稿はマレーシアにおける美術教育の調査に基づく報告の一部である<sup>1)</sup>。本稿では、カリキュラムの研究の一環として、教員養成機関における1997年の最新のシラバスを取り上げ、資料として提示する<sup>2)</sup>。

原資料は、マレーシア教育省から発行されているA5判65ページの冊子である(BAHAGIAN PENDIDIKAN GURU KEMENTERIAN PENDIDIKAN MALAYSIA, SUKATAN PELAJARAN DIPLOMA PERGURUAN MALAYSIA, PENGAJIAN PENDIDIKAN SENI, 1997)。本資料の提供は、クアラルンプールの特別教員養成学院(Maktab Perguruan Ilim Khas)の社会学主任であるババ・アハマッド・ビン・オマー(Baba Ahamad Bin Omar)氏によるものである。

以下には、その内容構成と、具体的内容を記述する。

### 1 マレーシア教員養成課程シラバス・美術教育の内容構成

このシラバスは、下記の目次のように構成されている。巻頭に国家の教育哲学、教師教育の哲学などが示され、序章に相当する部分ではマレーシア教育大臣による巻頭言、教師教育カリキュラムの概念モデルなどが示されている。これらは、美術教育に限らず、教師教育一般についての記述であり、マレーシアの教員養成の理念を表している。また、2020年構想への対応としての教員養成・教育政策という意味合いの記述も見られ、具体的な国家目標と教育政策が連動していることが理解できる<sup>3)</sup>。

美術教育に関わる具体的な内容は、「美術教育の目標・目的」、「伝達の方略」、「学期毎の特徴・詳細」で構成されている。また、「学期毎の詳細」には、各学期の目標、段階、学習事項が記載されている。

次章以降では、巻頭部分(「国家教育哲学」「教師教育哲学」「教育教育カリキュラムの概念モデル」)、美術教育の目標・方法に関する部分(「はじめに」「美術教育教授の特別な目標」「美術教育教授の特別な目的」「伝達の方略」)、美術教育の内容構成に関する部分(「学期毎の特徴」)、美術教育の内容細目に関する部分(「学期毎の詳細」)に分けて、これらの内容を記述する<sup>4)</sup>。

国家教育哲学	8. 学期毎の詳細
教師教育哲学	1 学期
1. はじめの言葉	2 学期
2. 教師教育カリキュラムの概念モデル	3 学期
3. はじめに	4 学期
4. 美術教育教授の特別な目標	5 学期
5. 美術教育教授の特別な目的	6 学期
6. 伝達の方略	9. 資料
7. 学期毎の特徴	10. 参考図書

## 2 シラバスの記述内容：巻頭部分

以下には、巻頭部分に当たる「国家教育哲学」「教師教育哲学」「はじめの言葉」「教師教育カリキュラムの概念モデル」を記述する<sup>9)</sup>。

### 国家教育哲学

マレーシアにおける教育は、個人の潜在能力を全体的に発展させるための一つの試みであり、また神への信仰に基づいて、知的、精神的、感情的および身体的にバランスのとれた人間の育成を目指す一連の試みである。この試みは、知識を持ち、技術を身につけ、高い倫理観を持ち、責任感を持ち、自己の発展を達成するための努力を行い、社会と国家の調和と繁栄に寄与するマレーシア国民を育成するものである。

### 教師教育哲学

尊敬される教師は、斬新で科学的な考え方をもち、国家の意志に従う構えをもち、国家の文化遺産を尊び、個人の発展を保障し、一つにまとまり、民主的で、進歩的で、規律のある社会を育てる教師である。

### はじめの言葉

2020年構想における国家目標は、マレーシアを世界の先進諸国に匹敵する工業国にすることである。この目標を達成する中で、マレーシア総理大臣 Y. A. B. によって提案されたマレーシア構想に沿うような進歩的な社会を育てるために、様々な問題に着手する必要がある。新しいマレーシア社会を形成する中での問題は、質の高い教育を通して真摯に取り組まれる必要がある。

マレーシア教員養成カリキュラムは、質の高い教師、優秀な能力や教師としての資質を持つ教師が、2020年構想を現実化する世代を生み出す、という信念を基に作成されている。このような信念をもって、マレーシア教員養成カリキュラムは、個人的な能力を持ち、自己の発展に対して責任感を持ち、学習者や社会に対して高いアカウンタビリティを持ち、愛国心を持つ教師を育成するという目標を掲げて作成されている。

マレーシア教員養成カリキュラムを普及させる試みは、教育の民主化という基盤や初等教育から質の高い教育を達成するという目的と同列にある。マレーシア教員養成カリキュラムを通して、専門的で学問的になる段階で、教育ディプロマの証明書のレベルから教育専門家へと高められる。定められたマレーシア教員養成カリキュラムの施行は、教育の仕事の価値を高め、同時に教育分野に関わるための認識能力や学問的な適切さの面において、質の高い候補生に刺激を与えることができる。

私は、各大学教師や実習生が意欲を感じることができるようになることを願っており、このマレーシア教員養成カリキュラムが定められた目標を、確実に達成することを願っている。

このマレーシア教員養成カリキュラムを普及する努力において、教育省内外の多くの方々が個人的、もしくは特定の団体として関わっている。そのため、教師教育部は、彼らのこの資料の完成に対する貢献に対して、感謝を述べたい。

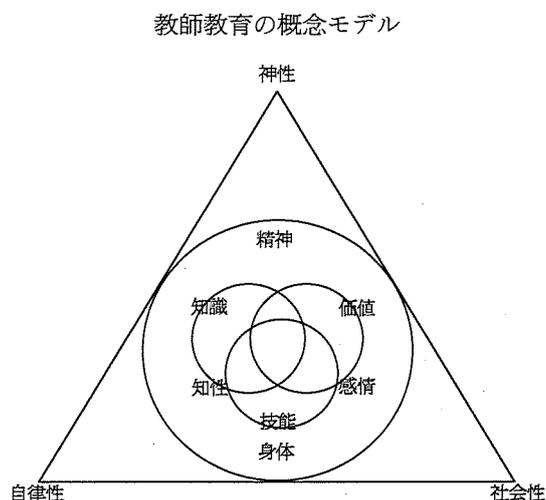
1996年1月

マレーシア教育省大臣

DATUK MAHPOR BABA

### 教師教育の概念モデル

教師教育の概念モデルは、3つの基本側面を強調する国家教育哲学（FPN）と教師教育哲学（FPG）から作られる。3つの基本側面とは、下の図のように計画されている教科やプログラムの全原則に通じる、知識、技能、価値（3K）である。



この教師教育の概念モデルは、教師の3つの側面、つまり自律性、社会性、信仰に対してのアカウンタビリティを強調している。この三角形は、以下のような計画されたプログラムの中に形を変えて組み入れられている。

神 性：神の教えを信じ、従う人間として科学や経験や個人の慈善を向上させる。

社会性：教育者、指導者および変化の代弁者として教師の役割を強調する。

自律性：忍耐力、愛国心の育成、文化科学を豊かにすること、規律と高い自律性を形成することを強調する。

FPNとFPGに従って、このモデルは、精神的、情緒的、知識および身体の調和のとれた教師個人の潜在能力が発展されるように強調されている。この希望は、知識、技術、および教師としての価値の遂行という側面を統一させた教師教育カリキュラムの実施によって達成される。

マレーシア教員養成カリキュラムは、三角形つまり知識、技術、価値観を統合的に説明しようとする考えによって作成されている。詳細に説明すると、以下のようになる。

知 識：特別教科において知識を獲得する。小学校学習指導要領（KBSR）、中学校指導要領（KBSM）。

技 術：コミュニケーションをとったり、学習したり、考えたりする力、テクノロジーおよび心理学の知識を獲得する。カリキュラムを実施する中でテクノロジーを用いるための基礎を与える方法を習得する。

価 値：慈悲深く、高い人格を持ち、忍耐力を持ち、愛国心を持ち、革新的で、創造的で、技術を持ち、専門性を持つ教師として、規律正しい教師の純粋な価値を理解し、感じ、実施する。

### 3 シラバスの記述内容：美術教育の目標・方法に関する部分

ここでは、美術教育の目標・方法に関する部分として「はじめに」「美術教育教授の特別な目標」「美術教育教授の特別な目的」「伝達の方略」を記述する<sup>6)</sup>。

#### 美術教育教授

##### はじめに

美術教育は、学習者が美術的な力や才能を発達させる機会を与えることを目的とする。この分野は、学校での教授・学習において、さまざまな美術的な価値やその実践に敏感になるための役割を果たす。教授は、分かりやすい言葉を通して、生徒に考えやアイデアを伝えるようになされるべきである。

美術教育は、認識力、美的感覚、創造力を高めることを通して授業の質を高める役割を果たす。美術活動は、コミュニケーションメディア、生活や周辺のなかでの美術、また、受け継がれ、尊ばれるべき民族の存在のシンボルを形成する文化遺産としての美術、という役割の中で行われる。

グローバル化の潮流を評価し得る教授や世界レベルの教育を用意するために、彼らはマルチメディアテクノロジーや創作テクノロジーの使用に対して開かれていなければならない。これを達成するために、授業は、教授用具として美術を完成させる中で信念を高めることができるように、自主学习用具としてのマルチメディアを使用したり、インターネットなどを手段とするコンピューターテクノロジーを適用することが望ましい。

この分野における第一の目標は、生活をおくる中で美術的で完全な考察を持って文化的で、技術的な個人を生み出し、文化遺産や民族アイデンティティに対する美術の貢献を知り、評価する個人を生み出すことである。

##### 目標

美術教育教授は、調和のとれた、そして批判的に考える力を持ち、創造的で、革新的で、発明的な美術教育領域の知識と技術を習得できる教師を生み出すことを目的としている。

##### 目的

1. 美術教育教授のためのマレーシア教員養成特別カリキュラムは、二つの領域に強調点をおいている。
  - 1.1 美術教育学は、以下のことを基本とする。
    - ・美の認知と考慮。
    - ・美術史。
    - ・美術の鑑賞と批評。
    - ・美術の生産。
  - 1.2 美術教育教授の原則は以下のことを基本とする。
    - ・美術教育の理念。
    - ・美術教育の教授方略と学習方略。
2. 上述の二つを強調することを通して、美術教育教授カリキュラム、特にマレーシア教員養成コースの目的は、以下のことである。
  - 2.1 美術的な用語によって熟練知識を用いて認知、鑑賞、生産および相互作用を作り出す手段を発展させ

る。

2.2 批判的かつ創造的な方法で美術教育教授分野における知識と熟練を達成するための教員専門の手段を  
発展させる。

2.3 国民の文化や文明を発展させる中での芸術や美術の役割を理解し、評価、敏感さを高める。

2.4 美術教育の発展における社会、文化、経済及び宗教に対する役割や影響についての認識を高める。

3. 美術教育教授法や美術教育学分野の必要を満たすために、発表のためのテクノロジーやマルチメディア  
技術と知識を用いる。

#### 伝達の方略

この教科の単位は、初等教育の一連のカリキュラム開発、特に美術教育科目に一致して計画されている。  
それは、美術教育の全ての側面を、美術の知識や技術の面から調和する方法でカバーするように編成され  
る。

美術教育教授コースは、勤労、社会的諸価値、文化遺産および宗教に対する認識を高めるという目的を  
持つ。この単位において用意される知識と技能は、議論、デモンストレーション、作業、反復、制作、訪  
問、セミナーやフォーラムを通して、創造力を持ち、批評する能力を持ち、独創的で美的な特徴に敏感な  
教師を育成する。

大学教師は、コース受講者の受け入れを確実にするために、テクノロジーやマルチメディアの使用を通  
して、批判的で創造的に技能要素を育成することができる活発な計画を立てることが奨励されている。

この計画は、コース受講者を変化の代弁者として育成するため、そして文明を持つ社会を具現化するの  
を助けるための基盤を与えるようにされている。

#### 4 シラバスの記述内容：美術教育の内容構成に関する部分

ここでは、美術教育の内容構成に関する部分として、各学期の概要を示した「学期毎の特徴」を記述する<sup>7)</sup>。  
これを概観すると、美術に関する内容は、「ビジュアルエクスペディション」「絵画」「美術史と美術遺産」「鑑  
賞と批評」「美術制作」「美術教育の理念」「教授・学習の方略」の7項目から構成されていることがわかる。  
これらの単位数は、順に2単位、2単位、2単位、1単位、14単位、3単位、8単位となっており、総単  
位数は32単位である。この内容構成に対応した授業科目が設定され、1から6学期(セメスター)の期間に配  
当されている。

美術教育講義  
学期毎の特徴

		1 学期			
		1 M	1 M	15 M	1 M
1.	ビジュアルエクスペディション (2 単位)	実 習 規 則  新 し い 教 師	実 習	ビジュアルエクスペディション I (1 単位)	試 験
2.	絵画 (2 単位)			絵画 I (1 単位)	
3.	美術史と美術遺産 (2 単位)			美術史 (1 単位)	
4.	鑑賞と批評 (1 単位)				
5.	美術制作 (14 単位)			・彫刻 (1 単位)	
	・美術とコミュニケーション ・工芸美術 ・周辺における美術			・金属美術 (1 単位) ・陶芸 (1 単位)	
6.	美術教育の理念 (3 単位)			美術教育の理念 I (1 単位)	
7.	教授・学習の方略 (8 単位)				
	単位数			(7 単位)	

		2 学期			
		1 M	1 M	15 M	1 M
1.	ビジュアルエクスペディション (2 単位)	実 習 規 則 新 し い 教 師	実 習	ビジュアルエクスペディション I (1 単位)	試 験
2.	絵画 (2 単位)			絵画 II (1 単位)	
3.	美術史と美術遺産 (2 単位)			美術史 (1 単位)	
4.	鑑賞と批評 (1 単位)				
5.	美術制作 (14 単位) ・美術とコミュニケーション ・工芸美術 ・周辺における美術			・グラフィック (2 単位) ・テキスタイル (2 単位)	
6.	美術教育の理念 (3 単位)			美術教育の理念 II (1 単位)	
7.	教授・学習の方略 (8 単位)				
単位数				(7 単位)	

		3 学期			
		1 M	1 M	15 M	1 M
1.	ビジュアルエクスペディション (2 単位)				試 験
2.	絵画 (2 単位)				
3.	美術史と美術遺産 (2 単位)				
4.	鑑賞と批評 (1 単位)			鑑賞と批評 (1 単位)	
5.	美術制作 (14 単位) ・美術とコミュニケーション ・工芸美術 ・周辺における美術			・プリント (1 単位) ・テキスタイル (1 単位) ・アニヤマン (1 単位) ・民芸 (1 単位)	
6.	美術教育の理念 (3 単位)			美術教育の理念 (1 単位)	
7.	教授・学習の方略 (8 単位)			方略 I (1 単位)	
単位数				(7 単位)	

		4 学期			
			8 M		1 M
1.	ビジュアルエクスペディション (2 単位)				試 験
2.	絵画 (2 単位)				
3.	美術史と美術遺産 (2 単位)				
4.	鑑賞と批評 (1 単位)				
5.	美術制作 (14 単位) ・美術とコミュニケーション ・工芸美術 ・周辺における美術			・ペインティング (1 単位) ・カービング (1 単位)	
6.	美術教育の理念 (3 単位)				
7.	教授・学習の方略 (8 単位)			方略 II (2 単位)	
単位数				(4 単位)	

		5 学期			
				15 M	1 M
1.	ビジュアルエクスペディション (2 単位)				試 験
2.	絵画 (2 単位)				
3.	美術史と美術遺産 (2 単位)				
4.	鑑賞と批評 (1 単位)				
5.	美術制作 (14 単位) ・美術とコミュニケーション ・工芸美術 ・周辺における美術			・室内装飾 ・風景画 (1 単位)	
6.	美術教育の理念 (3 単位)				
7.	教授・学習の方略 (8 単位)			方略 III (4 単位) <sup>9)</sup>	
単位数				(5 単位)	

		6 学期		
		12 M	15 M	1 M
1.	ビジュアルエクスペディション（2 単位）	実    習		試    験
2.	絵画（2 単位）			
3.	美術史と美術遺産（2 単位）			
4.	鑑賞と批評（1 単位）			
5.	美術制作（14 単位） ・美術とコミュニケーション ・工芸美術 ・周辺における美術			
6.	美術教育の理念（3 単位）			
7.	教授・学習の方略（8 単位）		方略Ⅳ（1 単位） <sup>9)</sup>	
	単位数		(1 単位)	

## 5 シラバスの記述内容：美術教育の内容細目に関する部分

ここでは、美術教育の内容細目に関する部分として、各学期に設定されている内容の詳細を示した「学期毎の詳細」を記述する<sup>10)</sup>。原資料には、各学期の内容についての目標、下位目標、段階と時間数、学習事項の一覧表などが記載されているが、紙面の都合上、目標の記述にとどめ、それ以外を割愛する。

### 1 学期

コース：ビジュアルエクスペディションの美的な考察力と鑑識力 I

15 時間（1 単位）

特別な目標

1. 美術の要素、原則および創作の構造について知り、理解する。
2. 具体的、抽象的および相関的な対象物に対する心情的な経験や視覚的な経験を通して美的感覚を養う。
3. 視覚や触覚に対する美的鑑識力や認識力を高める。
4. ビジュアルエクスペディションや創作活動を通して自然（世界）の直接的経験を高める。

### 1 学期

コース：絵画 I

15 時間（1 単位）

目標

1. メディア、技術および絵画の法則を確実に理解させ、活用させる。
2. 絵画の原則や構成に関する知識や規則を発達させる。
3. 目に見える形に対する認知力、思考および経験を表現させる方策を進展させる。

### 1 学期

コース：美術史 I

15 時間（1 単位）

目標

1. 時代や地域に合わせて、先史から現代までの視覚的な美術史の発展を知る。
2. 視覚的な美術の語りを通して描かれた様々な時代の人間のスタイル、技術、プロセス、考え方、文化の特徴を理解し、比較を試みる。
3. 美術分野の技術と知識の向上と自己形成を刺激するために歴史の経験を用いる。

## 1 学期

コース：美術制作 I

45 時間（3 単位）

### 目標

1. 美術活動，コミュニケーションおよび工芸におけるメディアの手段，材料，技術過程についての知識と技術を知り，習得する。
2. 美術のプロセスを用いる知識とその展示の手續の知識を高める。
3. 創作活動に含まれているポジティブな労働精神や純粋な価値について理解する。
4. 美術や制作労働，工芸および美的活動を通して，創作に対する美的な考慮や認識の能力を高める。

## 1 学期

コース：美術教育の理念 I：マレーシアにおける美術教育

15 時間（1 単位）

### 目標

1. マレーシアにおける美術教育の発展の歴史的背景，文化の影響および当時の政治について知る。
2. マレーシアにおける美術教育の目標と国家教育哲学と 2020 構想を果たす中での役割について理解する。
3. 素晴らしい教授・学習のために美術教育のカリキュラム，学習評価および計画に関する知識と技術を向上させる。

## 2 学期

コース：ビジュアルエクスペディションの美的な考察力と識別力 II

15 時間（1 単位）

### 目標

1. 創造的な美術創作品を作る経験を通して，美的感覚を発達させる。
2. 生活の中で美術に関連して，創作したり，評価したり，楽しんだり，コミュニケーションしたりするために，美的な考察力を高める。
3. 美術や文化的な諸側面から，比較したり，同定したりする方法を豊かにさせ，指導する。
4. ビジュアルエクスペディション活動や視覚作業を通して自然に関する直接的な経験を得る。

## 2 学期

コース：絵画 II

15 時間（1 単位）

### 目標

1. 対象の形や価値を表す視覚的美術の概念や原則を説明するために絵画の技術を習得する。
2. 絵画と同じような特徴を持つ美術活動との明確な違いを理解する。
3. 美的観察力や考察力を高める。

## 2 学期

コース：工芸遺産の歴史

15 時間（3 単位）

目標

1. 工芸美術創作を通して現実化された労働文化や生産技術，思考の表明に関する人類の文化の発展を知る。
2. 創作形体，模様，技術およびプロセスの諸特徴，機能および様々な民族集団における工芸美術の発展に対する宗教や文化の影響に関して理解し，比較を試みる。
3. 工芸美術分野の知識を高めるために，歴史の経験を用い，文化遺産に対して愛する気持ちを養う。

2 学期

コース：美術制作Ⅱ

60 時間（4 単位）

目標

1. 美術活動，コミュニケーションおよび工芸におけるメディア，材料，技術プロセスについての知識と技能について理解し，習得する。
2. 展覧会やショーの仕方に美術的プロセスを用いる知識を高める。
3. 創作作業の中に含まれるポジティブな価値や純粋な価値を理解し，経験し，感じとる。
4. 美術や工芸制作作業に対する美的な認識や考察力，完成した作品に対応する力を高める。

2 学期

コース：美術教育の理念Ⅱ

美術教育についての諸思想

15 時間（1 単位）

目標

1. 教授・学習過程の中で，より詳細に美術教育の原則と概念について理解する。
2. 教育者としての美術教育教師の役割とともに，創作者，職人，文化人そして美術家としての役割を知る。
3. 美的な認識や思考に用いることができる批判的，想像的，創造的，革新的，発明的な教師の人間性を生み出す。

3 学期

コース：美術の鑑賞と批評

15 時間（1 単位）

目標

1. 美術作品についての記述，分析および解説を通して，段階をつけたり，評価をする力を高める。
2. 美的な意識や評価に対して強い心を持つ美術作品，工芸，諸派および美術家について，口語的，記述的なコミュニケーション能力を高める。
3. 美術家の仕事の価値や美術思考の表現を分析したり，感じたりする活動を通して，自分自身の質や専門性を高める。

### 3 学期

コース：美術制作Ⅲ

60 時間（4 単位）

### 3 学期

コース：美術教育の理念Ⅲ

美術教育心理学

15 時間（1 単位）

#### 目標

1. 個人の人格と能力の発展と日々の生活との関連を豊かにする中での、美術教育の役割を理解する。
2. 的確で、印象深い教授プログラム、計画および方略を準備するために、子どもたちの心理的発展についての知識を用いる。
3. 教師たちの土台における慈悲の文化と注意力を高める。

### 3 学期

コース：美術教育の教授・学習の方略Ⅰ

15 時間（1 単位）

#### 目標

1. 美術教育教授・学習の歴史、モデルおよびモジュールを理解する。
2. 様々な教授モデルの経験と知識を通して、教授における想像的で多方面にわたる価値を豊かにする。
3. 教授目標の方針と方向にあわせた教授知識と技術を高める。

### 4 学期

コース：美術制作Ⅳ

30 時間（2 単位）

#### 目標

1. 美術教育、コミュニケーションおよび工芸の中で、メディア、道具、材料、プロセスおよび技術に関する知識と技術を理解し、習得する。
2. 展覧会やショーの美的なプロセスと手続きを用いる知識を高める。
3. 制作を完成させるプロセスの中に含まれている肯定的な労働価値や純粋な価値を理解する。
4. 美術的な生産労働、工芸および完成された制作に対する美的な対処を通して美的な認識能力と考察力を高める。

### 4 学期

コース：美術教育の教授・学習の方略Ⅱ

30 時間（2 単位）

#### 目標

1. 美術教育の教室や部屋における教授の概念と規則を理解する。
2. 教授技能の原則、目的および構成要素を計画する。
3. 印象を与える教授技能を習得する。

4. 印象を与える技能を高め、授業を評価する。

#### 5 学期

コース：美術制作V

15 時間 (1 単位)

#### 目標

1. 室内装飾の創作概念、メディア、プロセスおよび技術に関する知識と技能を知り、習得する。
2. 室内装飾の創作の手続きとプロセスを用いる技能を高める。
3. 室内装飾の創作を完成させるプロセスにおいて含まれる肯定的な労働精神や純粋な価値を理解する。
4. 室内装飾の創作作品を完成させる仕事や完成された作品に対する美的な対応を通して、美的な認識能力や考察力を高める。

#### 5 学期

コース：美術教育の教授・学習の方略III

60 時間 (4 単位)

#### 目標

1. 印象を与える美術教育の教授・学習方略に関する専門的知識を理解し、習得する。
2. 簡単で質の高いシーケンスに従って、美術教育プログラムを計画・実施する能力を高める。
3. 印象を与える教授・学習を助ける道具を使用する技術を高める。
4. 印象を与える方法による教授方略、選択、原則および技術を用いる技能を高める。

#### 6 学期

コース：美術教育の教授・学習の方略IV：美術教育の測定と評価

15 時間 (1 単位)

#### 目標

1. 美術教育の概念、規則および評価の種類についてよく理解する。
2. 評価アイテムと平均を計画する技能を高める。
3. 教授・学習の軌跡を測定するために、美術教育評価の様々な形態や手続きにおける評価する力を高める。
4. 評価活動を通して純粋な態度と価値観を養う。

#### 注

- 1) 本調査は平成 10～12 年度、文部省科学研究費補助金国際学術研究 (学術調査)「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究——マレーシア・シンガポール・インドネシアの事例」(研究代表者：福田隆真，研究分担者：佐々木幸，小平征雄，平成 10 年度研究協力者：中矢礼美，課題番号 10041075) に基づくものである。
- 2) シラバスの翻訳については、中矢礼美が担当した。
- 3) 2020 年構想 (ビジョン 2020, WAWASAN 2020) は、マハティール首相が 1991 年に提唱した、2020 年までの先進国入りを目指した国家的な展望である。この中で「①統一されたマレーシア民族 (Bangsa Malaysia) をつくり、②心理的に解放され、安定し、発達した社会をつくり、③成熟し、合意を基礎とし、コミュニティに根ざす民主主義を発展させ、④道徳的・倫理的な社会をつくり、⑤多様な民族からなるマレーシアの人々が、それぞれの生活習慣、宗教、文化を守りながら、一つの国民としての帰属意識をもち、⑥科学的・進歩的な社会をつくり、⑦強力な家族制度を軸とする思いやりのある社会

- と文化をつくり、⑧経済的に公正な社会をつくり、⑨競争的でダイナミックで強靱な経済をつくる」(萩原宜之、『ラーマンとマハティール——ブミプトラの挑戦』、現代アジアの肖像 14, 岩波書店, 1996, pp.204~205. より引用)が示されている。
- 4) 目次の中の「資料」「参考図書」は割愛する。また、「学期毎の詳細」では各学期における上位目標や皆目表, 段階, 学習事項が記載されているが, 紙幅の都合上, 上位目標のみを記述し, 下位目標や段階, 学習事項は割愛する。
  - 5) 原資料では表紙見返り及び i~iv に相当する。
  - 6) 原資料では pp.1~3 に相当する。
  - 7) 原資料では pp.4~9 に相当する。
  - 8) 原資料では 1 K (K はクレジット; kredit, 単位) と記載されているが, 誤植と思われる。後半の記述から 4 単位と判断されたので, 訂正した単位数を記した。
  - 9) 原資料では単位数の記載がなされていなかったが, 後半の記述から 1 単位と判断されたので, 単位数を加筆した。
  - 10) 原資料では pp.10~56 に相当する。

### 参 考 文 献

- ・マレーシア日本人商工会議所調査委員会 (編), 『マレーシアハンドブック '98』, マレーシア日本人商工会議所, 1998
- ・萩原宜之, 『ラーマンとマハティール——ブミプトラの挑戦』, 現代アジアの肖像 14, 岩波書店, 1996
- ・杉本均, 「マレー半島における民族教育政策」, 小林哲也・江淵一公 (編), 『多文化教育の比較研究 —— 教育における文化的同化と多様化』, 九州大学出版会, 1993, pp.259~286

### 付 記

本稿は, 本調査は平成 10~12 年度, 文部省科学研究費補助金国際学術研究 (学術調査) 「東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎調査研究 —— マレーシア・シンガポール・インドネシアの事例」(研究代表者: 福田隆眞, 研究分担者: 佐々木幸, 小平征雄, 平成 10 年度研究協力者: 中矢礼美, 課題番号 10041075) の成果の一部に基づく。

なお, 本稿の作成にあたっては, マレーシア教員養成美術教育シラバスの邦訳を中矢が担当し, 全体の構成とまとめを佐々木と福田が担当した。

(佐々木幸 本学助教授釧路校)

(中矢礼美 日本学術振興会特別研究員)

(福田隆眞 山口大学教育学部教授)